

## 第1回県立大学設置の検討に係る有識者会議 議事概要

1 日 時：令和5年6月16日（金）13：00～14：40

2 場 所：三重県勤労者福祉会館5階 第2教室及びオンライン

### 3 出席委員

石阪 督規	埼玉大学キャリアセンター センター長・教授
伊藤 公昭	株式会社三十三総研 代表取締役副社長 博士（学術）
田村 秀	長野県立大学グローバルマネジメント学部 教授
両角 亜希子	東京大学大学院教育学研究科 大学経営・政策コース 教授
山田 直彦	一般財団法人日本開発構想研究所 高等教育研究部 副主幹研究員

### 4 内 容

#### （1）出席者紹介

各委員が自己紹介を行った。

#### （2）議長選出

互選により、田村委員が議長に選出された。

#### （3）意見交換

- 今回どの学部をという議論が先行しているが、どんな人材をつくっていくか、どのような教育プログラムをつくるかが大事ではないか。
- 三重県は製造業が盛んなので必然的に工学部が欲しいとなる。しかし、優秀な人材は県外に出ていくことが多く、なかなか県内企業への定着は難しいように思う。
- 企業のニーズも大切だが、戦略的に考えて、今ある企業にあわせて学部を考えるのでは無く、今後の三重県の経済発展を視野に入れて、どんな産業が県として大事なのか、そのためにどの学部が必要なのかセットで考えないといけない。
- デジタルのトレンドはいつまで続くか分からない。今は情報通信産業への就職を求めて東京一極集中の状況がしばらく続くとは思いますが、5年くらいでトレンドは変わっていく。三重県としては、デジタルより産業・人材にこだわった学部づくりに力を入れた方がいい。
  
- 四日市や桑名からは、津より名古屋に行った方が近い。名古屋には多くの大学があり選択肢も多いことを考えると北勢地域で大学を作ると、南勢地域で作るとでは大学の性格が全く違う。例えば、北勢に設置するのであれば最先端の工学系（素材・水素・電子デバイス・サイバーセキュリティなど）が望まれるし、南勢に設置するのであれば、若者の進学のための提供が重要なファクターとなる。南勢の学生の進路として、高専まで含めると工学系・医療系に比して、文系に進もうと希望した場合の選択肢はかなり少ないと思う。
- 大学進学者収容力という「量」の議論で進んでいるが、「質」の議論も並行してする必要はある。既存高等教育機関に偏差値のブランク域があり、そのブランクを県立大学が埋められるのであれば、学生の進路の選択肢は拡大し、設置の意味はある。

- 学部を検討する上では、学生の就職先まで含めて、地域で何が必要なのか考えないといけない。
- 企業は必ずしも三重県の大学に居た人が欲しい訳ではない。むしろ、いろんな所を経験してきて、人生経験や視野の広い人を求めている。県内で大学を作ったから県内就職が増えるというのは、イコールではない。
- 最近は大大学でデジタルリテラシーを学ぶことが増えているので、県立大学で卒業生を出す頃にはそれは当たり前になっていて、むしろセンシングやデータベースを上手く活用してマーケティングをどうするか、顧客動向を理解する等が必要になってくる、そういう文理融合型教育を受けた人材であれば企業は欲しいと思う。
  
- 県内の高等教育に行っても 35%しか就職していないし、県外の高等教育に行っても 23%は戻ってきている。産業が元気でないと結局県外に出て行ってしまおうし、逆に産業に魅力があれば県外からも来てくれるので、県内での人材育成にこだわりすぎない方がいい。
- 県立大学設置の価値を何に見出すか。地域によっては、どこに出るにも不便で、その地域に生まれただけで進学コストが他より非常に高い子供たちがいる。地域の発展を支えることも大事だが、地方に行くほど選択肢が少ないので、そこを県立大学が補うことも大事。
  
- 養成する人材像が固まっていないと国から大学設置は認可されない。人材像がはっきりしないとプログラムが作れない。どういう高等教育機関を作るかより、どんな人材を三重県として育てる必要があるか議論することが重要だと思う。
- 学校基本調査によると、三重県の大学進学率は 10 年以上横ばいである。全国的には若干伸びている中で三重県は 10 年以上ほぼ横ばいということは、三重県の構造が変わっていない、高校卒業生で大学に行く割合が変わらない状態である。県内に高卒者を受け入れる就職先が多いのかもしれないが、人材の高度化という意味ではそういった層からも進学者が出てくる必要もある。高等教育機関の在り方を考えてもいいのではないか。
- 今回の費用対効果の試算では、300 人、600 人の入学定員が設定されているが、近年の新設大学の入学定員の平均は 130 人程度であり、300 人の設定は現実的ではないと思う。また、県内の私立大学への影響も大きいのではないか。
- 企業アンケートでは工学部が上位だが、工学部自体は機械工学、電子工学等と細分化され、コースを作る程コストもかかる。漠然と工学部ということではなく、どういう人材が必要かという議論が必要ではないか。
  
- 今はリスキリングが地域でも重要という議論がある。人材像・育成は 10 年・20 年先を見据えて考えないといけない。大学を作れば上手くいく訳ではなく、公立

大学の経営も厳しくなっており、統合や縮小も出てくるのではないかと。

- 県内に留めるため県内高校生のニーズに合わせた大学を作るより、全国でこの大学でないと学べないから三重県に行こうと思うような大学を目指すべきだと思う。ユニークさや奇抜さがなければ今後生き残れないのではないかと。ただ、トレンドがついてこない可能性もあるため方法は考える必要がある。
- 秋田の国際教養大学の成功例や、一方で広島のカトリック大学は定員割れが起きている事例もある。若者について、三重県にどのような人材が必要で、どのように人材を育てていくのか、それを行うのは県の直営が良いのかなど、お金のない時代に、どこまで県がやるのかは少し気になる。
- 三重県として高等教育の在り方をどう考えていくのか詰めていく必要があると思う。
- 通信制大学は定員割れが多いが、それでも新規参入がある。通信制大学の内容によっては、進学機会、自宅から物理的に通えない学生にとって良いサービスになるかもしれない。また、学費が通常の国公立大学より安い設定のため、既存の大学には影響が大きい。内容が充実した通信制大学を出て、社会で活躍する卒業生が増えてくると、学生が通信制大学に流れる可能性も十分にあるため、こうしたことも含めて考える必要がある。
- 地理的なバランスが非常に大事。仮に北中勢地域に県立大学ができて、南部の学生は地理的に通うことができず、下宿するなら名古屋や東京へ行ってしまう可能性がある。学びの格差をなくしていくのも大きなポイントだと考える。
- 県外から学生に来てもらうには、尖った大学を作るのも一つ。秋田の国際教養大はいい大学だが、地元議会では全然県に貢献していないと言われ続けており、難しい面もある。何を狙いたいのか、本当に県直営で大学を作る必要があるのかも含めて、県の高等教育をどうするのかを議論した方がいいのではないかと。
- 既存大学でも従来の語学や体育のように、教養教育の位置づけでデータサイエンスの授業を入れようとしている。データサイエンスはどこの大学でも最低限学ぶことになるので、県内でもそういう動きは強まると思う。
- 企業と大学の連携は、大学に期待される役割の一つであるが、企業と大学の間で動ける人が少ないと思う。大学のことも企業のことも分かる、つなげる人がいると現状の大学、企業でも、違う活動が生まれることも県の人材育成の一つとして考えてもよいと思う。

- どのような人材を求めるかという問題は難しく、半導体事業も 10 年後は分からない。データ関係の学部を作るのは、乗り遅れている感があると思う。今の企業が求める人材と、10 年後 20 年後、県にとって必要な人材は違うかもしれない。この問題、企業としては難しいし、大学でどんな人材を育成するのも同様に難しいのではないか。
- 一般的に日本の総生産は製造業の全体比率が 20% ぐらいだが、三重県は約 40% ある。そのため、製造業分野の研究開発は別として、オペレーションという意味では、高専や工業高校の優秀な学生が就職してくれれば有難い。それを踏まえると県内高校生の進路は大学ありきではないことも考える必要があると思う。
- 大学の設置学部を考えるにあたって、コンビナートなどの工場群や県土の約 70% が森林であるなど、県が保有する地域資源について考えないといけない。現在産業界では、二酸化炭素など温室効果ガスの削減対策について炭素税も含めて考えている。必ずしも県立大学である必要はないが、その研究ができればこの地域を活性化できるので研究機関は欲しいし、人材としてのニーズはある。
- 通信をメインにした大学や zoom の方が好きという学生もおり、ハードのキャンパスよりも、教育のプログラム、或いは人材育成のプログラムがしっかりしているところが大事と感じる。
- コロナ禍でオンライン授業が普及したが、一つのキャンパスに留まらず、在学中、キャンパスから離れて、何か地域の活動に入りながら、授業はオンラインで受けられる。そうした一つの場所に留まらない学び方は今後、増えてくるだろうと思う。従来の箱モノを作って、そこで学ぶスタイルは変わってくるのではないか。
- 日本でミネルバ大学のような特定のキャンパスを持たず、授業をすべてオンラインで行うことは難しいかもしれないが、試行する大学は増えていると思う。大学を作るのか、あるいは全国の大学から三重県を学びの場として使ってもらおうとか、色々な発想がある。新しく箱モノを作るだけが全てではないように思う。
- 今、観光サービス関連に就く若者が随分減っている。三重県の場合、観光サービスに従事する、いわゆる専門職を養成する大学、学部が無さそうなので、観光関連に県内で育成した人材が就職するような学部や専攻があってもいいと思う。
- 人材育成の観点からすれば大学に留まらず、専門学校も含めて検討する必要があるかもしれない。